

白藍塾オリジナル

2020入試小論文分析&解答のヒント

2020年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・経済学部

説明問題（200字）＋小論文問題（400字）の二本立てという形式は、例年通り。今年度は珍しく、2つの課題文を読んで答える形式になっている。ただし、どちらも同じ「分かち合い」というテーマを、課題文1は人類学、課題文2は経済学という別の観点から述べているにすぎない。

設問Aは、「分かち合い」が人間にとって必要と考えられる理由を、2つの課題文に即してまとめる問題。

課題文1は、北方狩猟採集民の分かち合いについて説明した文章。インディアンなどの諸集団は、人間と自然との関係の不確実性ゆえに、必ずしも均等にトナカイを狩ることができるとはかぎらない。そのため、狩猟に成功した集団はその情報を他の集団に伝達し、また余った肉を他の集団に分配する。そうした「分かち合い」を通して、集団のすべての人々が生き残る確率を高めるわけだ。

また、課題文2によれば、人間は共同体がなければ生きていくことができず、「分かち合い」が人間に生きがいを与える。そして、生活の場における活動は、家族やコミュニティーとの「分かち合い」によって成り立っている。農業などの近代以前の生産活動も、そうした「分かち合い」の経済によって営まれてきた（課題文1の狩猟採集もそれと同類だろう）。

両者の共通点を簡単にまとめると、「共同体を維持するためには、成員が互いに協力し合い、情報や生産物などを含めて多くのものを分かち合うことが必要であって、そうしてこそ一人一人も生きていくことが可能になる」といったことだろう。

そうしたことを、字数に合わせて説明するとよい。

設問Bは、本文の意味での「社会サービス」の重要性が増すべきか減るべきか、理由と合わせて論じることが求められている。これは、通常のイエス・ノー方式で対応できる。「本文の意味での」とあるが、これは課題文2で触れられているように、「悲しみの分かち合い」、つまり自分のためだけでなく社会全体のために租税を負担するという考え方に基づく社会サービスということだろう。

イエス・ノー、どちらで答えることも可能。ただし、イエスで答える場合、単なる精神論・道徳論にならないように注意が必要だ。例えば、現在の社会は少子高齢化や格差の拡大などが深刻化し、若者や低所得層の不公平感が高まっているという現状がある。そこで、そうした社会の現状を踏まえて、「こ

れ以上不公平感を高めて社会の分断を進めないためにも、分かち合いとしての社会サービスを重視するべき」などの論じ方ができるはずだ。

また、ノーで書く場合は、「分かち合い」を支えてきた共同体や社会の連帯がもはや存在しないことを踏まえて、個人化の進む現代社会に即した社会サービスの必要性を論じるとよいだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>